



(2) 「○稲」

173×57×6 011

(3) 「按田」

(140)×31×6 019

(4) 「藤木」(刻書)

43×29×9 011

(5) 「ウメキ氏」(刻書)

(124)×10×10 019

埋甕遺構 S X 八七九一

(6)

「奈良県大」〔和国添下郡カ〕  
中清水「久須」  
「小学」  
校第「」  
「」  
鶴

251×(92)×2 081

魚溜まり S X 八八三五

(7) 「飛車」

・「将カ」

28×25×9 061

(8) 「角行」

・「中将」

26×23×6 061

(9) 「角行」

・「」

29×25×4 061

(10) 「少将」

・「」

25×20×8 061

(11) 「大佐」

・「」

23×20×3 061

(12) 「金将」

・「金将カ」

26×24×2 061

(13) 「中」

・「中」

26×24×4 061

(14) 「金将」

・「将カ」

26×(23)×5 061

(15) 「銀将」

・「少佐」

25×(19)×3 061

(16) 「少佐」

・「少佐」

25×(22)×4 061

	(17)	・ □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>		
		・ 少 <sup>1</sup> □ <sup>2</sup> 〔佐カ〕	(22)×20×5	061
	(18)	〔少佐カ〕 □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>	26×(14)×4	061
	(19)	・ □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>		
		・ □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup> 〔佐カ〕	25×(13)×4	061
	(20)	・ □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>		
		・ 大 <sup>1</sup> □ <sup>2</sup> 〔尉カ〕	24×20×5	061
	(21)	・ 〔桂馬〕		
		・ 〔中尉〕	26×(20)×2	061
	(22)	・ □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>		
		・ 〔中尉〕	23×19×3	061
	(23)	〔香車カ〕 □ <sup>1</sup> □ <sup>2</sup>	23×20×4	061
	(24)	・ □ <sup>1</sup>		
		・ □ <sup>1</sup> 〔中カ〕	(10)×(14)×2	061

(1)~(3)は札状の木簡。(4)(5)は竹片に刻書したものの。(6)は看板状のもの。(7)以下は将棋の駒。文字は墨書ではない可能性が高い。上端部がしっかりとした圭頭のもの、やや崩れたものがある。多くは片面を剥ぎ取るように削り、行軍(軍人)将棋の駒に二次的に加工する。削った面はいずれも未調整。削り方は、駒の下部左右どちらか一端に本来の面を残し、その対角線方向に向かって削り取るものと、全体を均一に削り取るものの二種に大別できる。行軍将棋の文字は、墨書のものもあるが、現状で橙色を呈するものもある。何らかの塗料の色か、鉄分が付着したためかは不明。行軍将棋は、日清・日露戦争期に詰め将棋から発展したものとされ、年代の上限を決める手がかりとなる。なお、釈文は原則として行軍将棋に二次的に加工する前の当初の駒を基準にして表記した。

#### 9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇五』(二〇〇五年)

(馬場 基)